

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 106 人

② 数学 106 人

③ 理科 107 人

5 留意事項

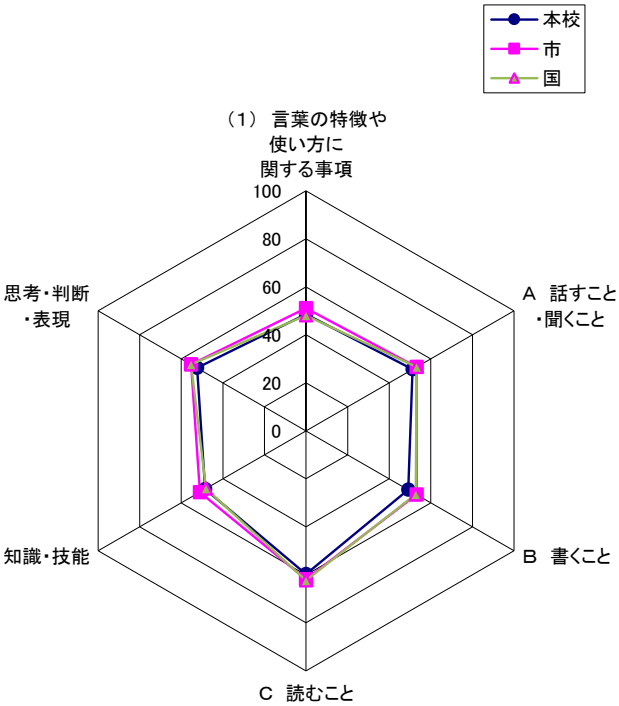
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	48.6	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	51.2	53.2	53.2
	B 書くこと	49.1	53.1	52.8
	C 読むこと	59.7	61.8	62.3
観点	知識・技能	48.6	51.1	48.1
	思考・判断・表現	52.4	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

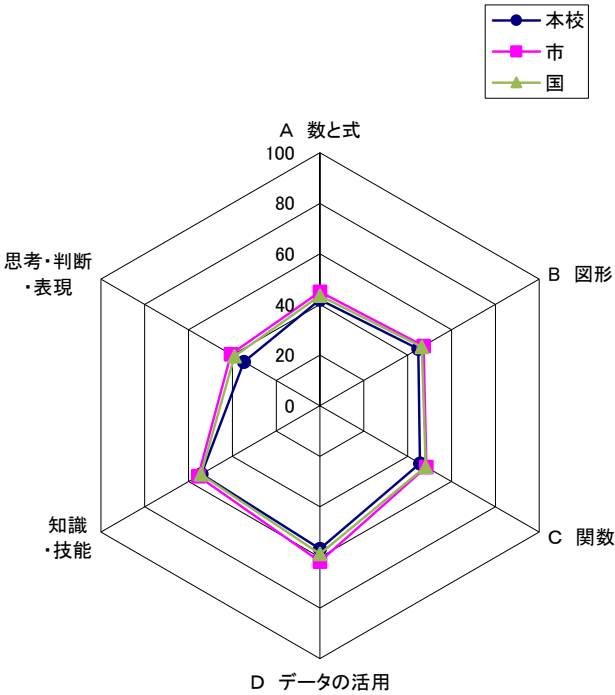
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県より0.3ポイント低い、全国より0.5ポイント高い。 ○変換した漢字として適切なものを選択する問題は、県より3ポイント、全国より2.5ポイント高い。 ●事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題は、県より3.6ポイント、全国より1.6ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの練習は、毎時の国語の授業で少しずつ積み上げて行くことが肝要であり、主体的に調べたり覚えたりする学習活動を習慣づける。 ・日頃から読書に勤しみ言語感覚を豊かにしていくよう指導する。また、漢字や語句を適材適所で用いられるように、分からない語句等は直ちに解明しておくよう指示する。
(2) 情報の扱いに関する事項	対象問題なし	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	対象問題なし	
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、県、全国よりも約2.0ポイント低い。 ○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかの問題は、県、全国より約4ポイント高い。 ●自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかの問題は、県、全国より約6ポイント低い。	・話を聞く場面というのは、学校生活、社会生活の中で多岐にわたって存在する。そこで説明や講演や注意や指示を聞いたりするときは、論理の展開に注意したり、予測したりして聞くように意識させる。 ・話の中心を明確にし、事実と考えとの関係に注意して、構成を考え話すように、特にスピーチを行う授業のときに指示する。また、プレゼンテーションを行うときなど、自分の考えを明確にして、説得力のある話を心掛けるよう学習の支援をする。
B 書くこと	平均正答率は、県、全国よりも約4.0ポイントほど低い。 ○読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える問題は、県と全国の平均と同等の正答率であった。 ●書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかの問題は、県、全国より約9ポイントほど低い。	・表現の仕方を考えたり、資料を引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になり、表現を工夫できるよう学習指導を行う。 ・「書くこと」において、集めた材料の客観性を確認し、伝えたいことを明確にするように、また「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように、論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫するよう指導する。
C 読むこと	平均正答率は、県、全国よりも約2.6ポイント低い。 ○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかの問題は、県と同等の正答率であった。 ●文章の構成の展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかの問題は、県、全国より3.9ポイント低い。	・文学的文章の読解では、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを、描写をもとに読み取るための学習指導を工夫する。 ・説明的文章の読解では、筆者が説得力を高めるために用いている論理の展開や表現の仕方を捉えながら読み取るよう指導する。 ・理解したり表現したりするための必要な語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにするよう読書の重要性を説き、実践させる。

宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	41.9	45.0	43.5
	B 図形	44.8	47.2	46.5
	C 関数	45.6	48.5	48.2
	D データの活用	56.6	61.6	58.6
観点	知識・技能	54.1	55.6	54.4
	思考・判断・表現	34.7	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は市よりも3.1ポイント低く、国より1.6ポイント低い。 ○素数を答える問題など、知識を問う問題の正答率は国や県を大きく上回っている。 ●式の意味を読み取ったり、目的に応じて式を変形したりして数学的な表現を用いて説明する問題の平均正答率が国や県よりも大きく下回っている。	・授業の中で取り組んでいる、基礎的な計算能力の定着を図る時間は継続して行っていく。 ・教え合いの学習の中で答えを理解して終わりではなく、なぜその考え方になるのかといった根拠の部分まで話し合う時間を取れるようにする。
B 図形	平均正答率は市よりも2.4ポイント低く、国より1.7ポイント低い。 ○多角形の外角の求め方は理解している生徒が多く、平均正答率は国や県を上回っている。 ●平行四辺形になることを証明する問題では、正答率が国や県を3ポイント以上下回っている。無回答の生徒の割合が3割近く、国の平均よりは少ないが、県よりは多くなってしまっている。	・数と式同様、知識については理解している生徒が多いので、定期的に行っている問題演習の時間は継続していく。 ・証明の問題では正答率が低いことだけでなく、無回答の生徒の割合を減らしていくことも課題である。条件を覚えていないのか、証明の進め方を覚えていないのかなど、無回答の理由は多く考えられるので、授業で証明の問題を解く際に、生徒のつまづきポイントを把握し、解説をする際に時間をかけるポイントを絞る。
C 関数	平均正答率は市よりも2.9ポイント低く、国よりも2.6ポイント低い。 ○知識・技能を問う問題に対しては、平均正答率は国や県を若干下回っているが、無回答の生徒の割合は少ない。 ●問題解決の方法を数学的に説明する力を問う問題に対しては、平均正答率は国や県より低く、無回答の生徒の割合は多くなっている。	・1年生からの学習のつながりを意識させるために、式を求めたり、変化の割合や変域を求める問題を、それぞれの関数での違いに注目しながら復習する時間を取るようになる。 ・授業の中でその答えを導いた根拠や、注目した数やグラフ上の点などを説明する時間を確保する。 ・授業の類似問題等を解かせることで、授業内容の理解の定着を図る。
D データの活用	平均正答率は市よりも5ポイント低く、国よりも2ポイント低い。 ○確率についての問いでは、最適解を答えている生徒の割合が国の平均を上回っている問題もある。 ●相対度数を問う問題では、度数を答えてしまったり、与えられる数と与える数を逆に計算をしてしまったりしている生徒が多い。	・身の回りにある事象を問題に取り入れるなど、生徒に興味を持たせ、印象に残るような授業を心掛ける。 ・データをもとに説明する問題にも対応していくために、用語を使いながら説明する授業内容も取り入れていく。

宇都宮市立古里中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.5	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	60.9	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	44.2	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	35.8	36.7	37.3
観点	知識・技能	64.2	67.0	66.8
	思考・判断・表現	38.5	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

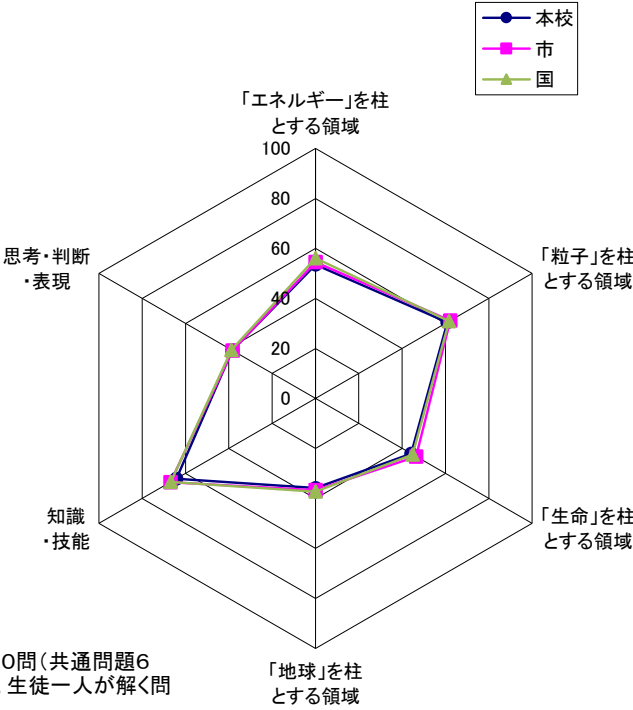
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値である

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●オームの法則について、電圧と電流の関係を理解していない生徒が多く見られる。 ●直列回路と並列回路についての利点を答える問題場面で、直列回路と並列回路の特徴を正しく理解している生徒が少ないと考えられる。	・電流と磁界、オームの法則といった電気の単元について苦手と感じている生徒が多いため、基礎的な知識を身につけられるよう、既習事項の復習を授業の中で取り入れるなどの指導の工夫を行う。
「粒子」を柱とする領域	○実験における課題の設定がよくできている。実験においてなぜこのような操作を行うのかといったことを授業内で確認してきた成果であると考えられる。 ●塩素の元素記号を記述する問題場面で、塩素以外の元素記号、化学式で答えている生徒が多かったため、元素を正しく表す力に課題がある。	・引き続き、実験前後の指導について仮説を立てる場面、考察を行う場面を設定して、生徒に考えさせる機会を作っていく。 ・「エネルギー」領域と同様に、化学式などの基礎的な知識の定着を進めるための指導を充実していく必要がある。現象を化学反応式で表すことや化学式を使って説明することなど生徒に表現させる機会を増やしていく。
「生命」を柱とする領域	○呼吸を行う生物について問う問題場面で、県の平均生徒率を上回った。生物についての理解や興味関心が高いことが考えられる。 ●スケッチの良さについて適切なものを答える問題で、誤答が目立った。文章の読み取りから正しい特徴を選ぶことに対し苦手と感じている生徒が多いと考えられる。	・文章から必要な情報を見つけ、考えていくことが必要である。例えば、教科書の情報から実験の操作を適切に捉えることや実験の操作の意図を考えることなど教師の話だけではなく、様々な媒体から考えさせることが肝要である。
「地球」を柱とする領域	●れき、砂、泥の特徴から水が染み出る場所を判断する問題場面で、水がたまる場所が考えることができない生徒が多かった。解答が分散されていることから問題の意図が読み取れていない生徒が多いと考えられる。	・「生命」領域と同様に、文章から必要な情報を見つけ出すことに課題が見られる。それに加えて問題の状況を想像をできていない可能性があるため、時間的・空間的な見方の育成を図ることを重視していく。



宇都宮市立古里中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「自分には、よいところがあると思う。」と回答した生徒の割合は86%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答した生徒の割合は93. 5%で、生徒は自分の良さに自信をもち、自己肯定感の高い状態で、学習や生活に臨むことができている。	
○「人が困っているときには、進んで助けている。」と回答した生徒の割合は94. 3%で9割を超えており、他者と進んで関わりながら良好な関係を築こうとしていることがわかる。	
●「困りごとや不安がある時に、先生は学校にいる大人にいつでも相談できる。」と回答した生徒の割合は69. 2%で、全国平均を6. 1ポイント下回っている。今後も教育相談の充実を図ると共に、困りごとや不安があると思われる生徒に対しての働きかけを学校全体で取り組んでいく。	
●「学校いくのは楽しい。」と回答した生徒の割合は79. 4%で、全国平均を6. 6ポイント下回っている。学校行事等の生徒の主体的に活動を今後も継続し、授業では生徒が主体的に取り組むことにより楽しいを思える機会を増やしていく。	
○「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。」と回答した生徒の割合は70. 1%で全国平均を7. 1ポイント上回っている。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。」と回答した生徒の割合は87. 8%で全国平均を3. 1ポイント上回っている。今後は、協働的な学びにおける対話を生かしながら、自分の言葉でまとめて書くかつ活動につなげるなど、書くことの充実を図っていく。	

宇都宮市立古里中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善	年間を通して教師の授業改善を目的とした校内研修を実施する。	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」(87.8%)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、書く内容を考える問題の中で、全国平均よりも3ポイント以上低いものがいくつかあった。	授業中での言語活動の質の向上を図る。	授業の中で、根拠をもって考えたり、書いたり、伝え合ったりする活動を多く取り入れ、生徒が主役となる活動の時間を確保する。 授業で振り返り活動を行う時間を確保し、自分の考えを文章にまとめて書く習慣をつける。